

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	小泉 登	所 属	U12 カテゴリー
大会名	令和 5 年度 第 53 回関東中学校バスケットボール大会		
期 間	2023 年 8 月 7 日 ～ 9 日（参加日：8 月 7 日 8 日）		
会 場	日環アリーナ栃木		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 3 日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8 月 7 日	男子・女子 1 回戦	日環アリーナ栃木	
8 月 8 日	男女 2 回戦・準々決勝	日環アリーナ栃木	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>指名審判員の茂泉氏・東條氏・古畑氏の 3 名から『S 級審判員になるために取り組んだこと』というテーマでお話を頂いた。</p> <p>●茂泉 圭治 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を積むことが大事であり、その為には仕事や家庭の調整をおこなう必要がある。 ・単に割当をこなすだけで無く、毎回目的を持って取り組む。また割当が無かったとしても会場に足を運び、色々な方とコミュニケーションをとる。他の方から学んだことが自分自身の引き出しとなり、必要な時に学んだことを引き出せるようになってくる。（動かせる引き出しを作る） ・メンタルが弱い理由はバスケ技術を知らないから。ルールをしっかりと理解することや、技術を知り深めることは非常に大事。それによる裏付けがあるから判定をすることができるようになる。判定の裏付けや根拠をもつための知識をつければ、メンタルを強く保てる。 ・『やってみる』と『振り返る』 スクラップ&ビルドではなく、やってみたことを振り返り、現状で修正すべき点を修正していく。出来ていることまで無くさない。あれこれより、1 つずつチャレンジしてしっかりと振り返る。 <p>●東條 輝正 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスを掴む 様々な経験を積むことが非常に大事。 ・ステップアップするために まずはコートに立つ機会を増やさなくてはいけないし、立つためには都合をつけなければいけない。都合をつけることが第一歩。 ・客観的にゲームを見る。主観的になりすぎず、一步引いて見ることも大事。 ・正しい判定のためには、メカニクスを正しく理解する。 <p>●古畑 咲 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マインドセット <p>カラーバス効果といった方法を活用する。なりたい自分の位置付けを紙に書き、毎日見ることで自分の意識づけになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高の体験 <p>BLG チャレンジを経験したことで、立ち位置を再確認することができた。女性 3 人が男性の試合に審判として普通に行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから <p>これからは多くの方に還元をしていく。一緒に挑戦する仲間であり家族である方々に、効果的なフィードバックをしていきたい。現場に立つ方々が安心して審判ができるように、自分自身の立場から環境を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足跡を残していく <p>思いは引き継がれるものでいつか実現する。まずは目の前のことから変えていきたい。そういった意識をもって取り組んでいく。</p>			

担当試合①	
期 日	8月7日(月) 男子1回戦
対戦カード	赤塚中学校(茨城) vs 一条中学校(栃木)
ク ル -	CC: 関谷 洋平 氏(東京) U1: 小泉 登(埼玉) U2: 小野里 健太 氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任: 渡邊 論 氏(栃木)
<p>▶ゲーム前のPGC 基本的なメカニクスの確認・チーム情報の共有・TOとのミーティング</p> <p>▶ゲーム後のミーティング (赤塚) 50点対99点(一条)</p> <p>●全体として 大きなトラブル無く3人でスムーズにゲームを進めることが出来た。 ただし点差がついた中で1試合通して振り返ると、前半の早い時間帯に赤塚のセンターに対する守り方に笛を入れるべきだった。現象としては大きなコンタクトではなく、RSBQの崩れも小さいプレイであった。自分の判定としてはセンタープレイヤーの技術不足としてコールしなかったが、ディフェンスはイリーガルなコンタクトをしていた。小さいコンタクトだとしても笛をいれることで、もう少し赤塚が点を入れることができる展開になったかもしれない。</p> <p>●メカニクスについて</p> <p>①コフィンコーナーに追い詰められたケースに、3人がどれだけ共通認識をもって対応できるか。 自分がトレイルの際に、センターエントリーがありコフィンコーナーに赤塚が追い詰められるケースがあった。バックパスが気になってフロントコートに入るのが遅くなったが、追い詰められるケースを想定して、早くセンターに入ったほうが、オリジナルセンターがトレイルに上がることで楽にプレイを判定することができた。</p> <p>②交代をさせるレフリー ローテーションがうまくいかず、ファウルを取り上げたレフリーがオポジットに行き、オポジットから交代請求をおこなうケースがあった。他の2人が気づき、交代請求に対応するべきであった。</p> <p>●自分への指摘事項 より良いポジションを目指して、ポジションアジャストを意識してほしい。あと1歩か半歩ずれることで、もっとクリアにプレイを見ることができる。</p>	
担当試合②	
期 日	8月8日(火) 女子2回戦
対戦カード	明見中学校(山梨) vs 昭和学院(千葉)
ク ル -	CC: 飯田 はるか 氏(神奈川) U1: 関谷 洋平 氏(東京) U2: 小泉 登(埼玉)
ミーティング内容	審判主任: 古畑 咲 氏(東京)
<p>▶ゲーム前のPGC 基本的なメカニクスの確認・チーム情報の共有・TOとのミーティング</p> <p>▶ゲーム後のミーティング (明見) 32点対66点(昭和学院)</p> <p>●全体として 大きなトラブル無く3人でスムーズにゲームを進めることが出来た。</p> <p>●自分への指摘事項 Good point 前日に指摘されたポジションアジャストに関して意識していると感じた。 Challenge point もっと早くプレイを捕まえて良い位置に動くことを意識してほしい。</p>	

それにより正しくプレイを判定でき、POC を的確に捉えることができる。カテゴリーが変わると選手が POC に対してシビアになってくる。審判として正しい判定をするために、より良い位置で判定する事にチャレンジして欲しい。

全体の感想

この度は関東中学に派遣して頂き感謝申し上げます。関東でトップレベルの中学生が集まる大会に 2 日間参加させて頂きました。2 試合を担当させて頂き、トップリーグで活躍されている S 級の方から、コメントを頂けるという貴重な経験をさせて頂きました。あまり担当することのないカテゴリーや、初めてお会いする方々とクルーを組むということで、普段から基本的なことを徹底することが、どれだけ大切さかを痛感しました。また担当した試合を通じて、より良い位置で判定をする為の 3PO における細かい動きや、3 人での協力の大切さ改めて感じる事ができました。初日に頂いた講評を翌日のゲームですぐに意識できたことが、自分自身としては良かったと思っております。

今大会で学んだことを、自分のカテゴリーにしっかりと伝達していきたいと思えます。

今回の派遣にあたり、大変お世話になった栃木県バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣してくださいました埼玉県バスケットボール協会審判部の皆様、日頃活動でご指導して下さる皆様に心より感謝申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。